

ミュージアム アーカイブ ワークショップ

美術館・博物館や図書館は、アーカイブズの収集・保存・公開を主たる業務とする公文書館のような専門機関ではありませんが、所蔵品の歴史的 position 等に関わるユニークな一次資料や、「貴重資料」「郷土資料」などと称されるさまざまな種類の資料を収蔵しています。

そういった収蔵資料類の情報公開に向け取り組む大阪中之島美術館（2021年度開館予定）準備室は、アーカイブ実務における課題に日々直面するなかで、それらの解決に必要な知識や技術を多分野の専門家から学びたいと考えました。さらに、情報の保存や公開における活動の質を向上させるには、担当者がひとりで課題に向き合わなければならない状況の打開が必要であると感じています。

そこで、共通する課題への対策や新しい技術についての情報共有、豊かな情報資源の保護と利用促進のため、文化機関などで情報資源を取扱う実務者コミュニティの形成を目指して、「ミュージアムアーカイブ・ワークショップ」シリーズを開講します。

開催テーマ：第1回・視聴覚メディア（管理とデジタル化）／オーラルヒストリー（公開とデータ保存）／管理データベース（目的と情報取得の方法）／アーカイブズの受入れと情報共有／ドキュメンテーション（作品修復・展示情報の作成と管理）／他



大阪中之島美術館準備室主催事業 | 年1回開催（予定） | 実務担当者等対象 | 事前申込制

第1回 視聴覚メディア管理 と デジタル化 2019/03/08 11 ~ 17時半

会場：神戸映画資料館（神戸市長田区腕塚町5丁目5番1アスタくにつか1番館北棟2階）

主催：大阪市（大阪中之島美術館準備室）

一般社団法人神戸映画保存ネットワーク（文化庁
平成30年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）

協力：神戸映画資料館

申込：shinbi@city.osaka.lg.jp 担当・松山 ※事前申込制（定員20名、2月末締切）

氏名・所属・連絡先を明記の上、件名を「3/8 WS参加申込」としてメール送付

第1回のテーマは視聴覚メディアです。酸っぱい臭いを放つフィルムが存在に気づいていながら、放置していませんか？

劣化の進度を遅らせることやコンテンツの救済など、目的や状態に応じて、できること／やるべきことがあります。それを「後回しにすること」の責任は、担当者ひとりひとり自覚する必要があります。

とはいえ、限りある人的・経済的リソースの中で何ができるのか？視聴覚メディアといっても、映像フィルム、音声テープ、ビデオテープ、記録ディスクなど、これまでに使用され廃れてきたメディアは多岐にわたり、再生機器に依存するという特徴から、情報の継承を急がねばならないものもあります。これらのメディアに記録されてきた情報を正しく未来へ継承するために、取扱者がまず気をつけるべきことは何か、また、メディア変換によって失われる情報はどのように補完すればよいのかなど、今回は身近な視聴覚メディアの管理とデジタル化について、実務に役立つ視聴覚メディア保存の基礎のほか、「適切な」デジタル化の選択やデータの取扱いについて学びます。

講師：とちぎあきら（株式会社IMAGICA Lab. アーキビスト）、安井喜雄（神戸映画資料館 館長）、野原あかね（株式会社IMAGICA Lab.）、松山ひとみ（大阪中之島美術館準備室）、他

